

「主は何をあなたに求めておられるのか。それは正義を行い、
慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩むことである。」
(旧約) ミカ書 6章8節

北星学園大学附属高校は、スクール・ミッションとして「キリスト教精神に基づいた他者と共に生きる自立した市民としての人格形成を育む」ことを教育目標として掲げ、さらに3つの力を育成することを使命として、本校の教育を作り上げていきます。

① 「共育」を理念とし、他者の意見を聴き主体的に思考できる生徒の育成

② 「知る力」を養い、自己理解と世界理解を深め、社会における自らの視野を広げることのできる生徒の育成

③ 「探究」することによって、学びを社会につなげ、社会に還元する力を身に付けた生徒の育成
また、昨年度の総括を踏まえ、「2040年までに目指す姿」として掲げる5つの教育を柱とするブランド力ある高等学校として、チャレンジを続けます。

教学の観点では、本学の教育を深化させるために、「Ⅰ.教科教育」「Ⅱ.生活指導」「Ⅲ.進路指導」において、具体的な目標をもって取組みます。生徒数が増えたことによって、教育の質が低下しないように内部で組織力を強めチームとして機能させることを目指します。

これらを実現するために、各教員に対してオンライン、対面講義、見学等で学びを深めることを促します。

財政運営については、2030年度までの中期的な財政計画に基づいて、目標達成のために支出削減を行いつつ、高校授業料無償化を追い風にした私立高校への入学希望者が増加していることをチャンスと捉え、それに甘んじることなく、安定した生徒募集に努めます。



北星学園大学附属高等学校
校長 今城 慰作
IMAJO, Isaku

Ⅱ. 重点施策

1. 下記に掲げた点を、今年度の具体的な重点施策とします。

(1)	学校教育目標の理解を深めつつ、私学の魅力や特色のある教育を意識して取り組みます。
(2)	高大「連携」を更に強化していきます。
(3)	学習活動、クラブ活動、特別活動の中で、個々の生徒を尊重し、全人的に理解するように努めます。

Ⅲ. 教学

I. 教科教育

1. ICT を活用し、知識・技能の定着を図りつつ、効率良く学習できる環境を整える。
2. 知識を得ることや学ぶことに能動的に取組み、自らの世界を広げることができるように、授業や行事を計画する。
3. 適宜必要な情報を導き出し、それらを有機的に組み立て活用し作り上げていく力を育めるように、教員の情報スキルを高める。
4. 上記項目の目標を達成するために、外部研修への参加推奨、オンライン講義の参加、講師を招いた研修会の開催などで教員のスキルを向上させる

(1)	次期学習指導要領に向かた教育改革の理解と実践を検討します。
-----	-------------------------------

5. 主体的・対話的で深い学びの実践を進める。
6. 思考力・表現力・判断力を身に着け、自立した自己を確立する。
7. 学習の機会に他者の考え方や価値観に触れさせ、知識や視野を広げ（深め）る事で、人間性の成長を図る。対話による学習の機会を多く設け、周りの力も借りながら課題解決の力を養えるような指導力を身につける。

(2)	ベネッセの「今未来手帳」を導入し、学習や生活のプランニングが立てられるように実践計画を運営します。
-----	---

8. 多様性・協働性を意識し、他者や社会、世界とつながりを意識した課外活動を行う。

(3)	個々の生徒に応じて、合理的配慮の進め方を 検討します。
	新たな指導体制への検討に着手します。
	不登校生を出さないサポート体制を確立します。

9. 高校生活の間に、科学的・論理的な思考を深める事ができるように、3年間の学校生活の中であらゆる機会を通じて学ばせる。

(4)	外部の資源を活用し、学習活動や課外活動を充実させる方策を検討します。
-----	------------------------------------

10. 発表の力を身に付けられるように、複数の教科で探究的な学習を行う。

11. 変動する世界状況の中で、普遍的な真理（キリスト教精神に根差した人間観、倫理観など）を探究する。

(5)	社会科研修旅行の企画運営と参加者の募集を行います。
	総合研修旅行の海外コースを見直します。

II. 生活指導

1. 人は社会の中で育つという考えに基づき「集団づくりを中心に据えた教育」を理念とする実践構築のための具体的な仕組みを確立する。

(1)	P T A ・ 生徒と協議しながら生徒の生活を見直し、新しい校則について検討します。
-----	--

2. 他者理解と自己表現を養いながら、「人間性」「社会性」を育てるため、課外活動の活性化と指導体制を強化する。

(2)	登校時や礼拝入場時に、指導部が中心となり生徒への声掛けを行い、適宜、生徒とのコミュニケーションを通じた指導に取り組めます。
-----	---

3. 生活指導上の問題が起こる前に全教員で「未然に防ぐ」ことができる指導体制を構築する。

(3)	バスターミナルでの乗車指導を継続的に行います。
	外部の講演者を招き、生徒に交通安全の意識を醸成します。

III. 進路指導

1. 生徒自らが望む将来像に見合った進路選択ができるように、進路指導体制を強化する。

(1)	各年次の進路指導の流れについて見直します。
-----	-----------------------

2. 大学生（学園内）との交流等も含めた高大連携事業の効果を検証し、取り組みの強化を計りながら学内進学者を増やす。

(2)	北星学園大学の新学部（国際学部、情報科学部）に関する情報を生徒に共有する機会を設けます。
-----	--

3. 時代によって変化する大学入試制度を研究し、進学希望者の進路実現に向けて適切な情報提供ができる体制を確立する。

(3)	キリスト教同盟校推薦希望者への各分掌から関りを精査します。
-----	-------------------------------

IV. 経営・管理

I. 募集体制と広報

1. 目指す姿に掲げた「5つの教育を柱とするブランド力ある教育」を意識し、私立の独自性を活かした戦略的な「入試・広報」体制を確立する。

(1)	キャッチフレーズの「Shine Forward」を意識し、本校の独自性を活かした戦略的な「入試・広報」体制を展開します。
-----	--

2. 入学生のニーズ、在校生の満足度を把握し、募集体制と広報に活かせる体制を構築する。

(2)	学校説明会に各回 300 名の中学生を迎えることができるような広報を展開します。
-----	--

II. 働き方改革

1. DXを推進し業務の効率化を目指す。

(1)	DXを推進し、業務の効率化を目指します。
-----	----------------------

2. コンプライアンスを徹底できるような管理体制を構築する。

(2)	「働き方改革推進委員会」を発足し、課題を挙げて勤務実態を把握します。
-----	------------------------------------

III. 採用計画

1. 計画的な採用と適正な人員配置を実現できる体制を構築する。

(1)	教員不足の現状を踏まえ、早期から教員の専門性・経験・適性を踏まえた配置及び採用を開始します。
-----	--

V. 財務

I. 財務運営方針

1. 2030 年に向けて設定した財政運営目標を達成する。

(1)	2026 年度入学者のうち同年度中の転退学者の抑制に向けた対応に着手します。
-----	--

2. 奨学生を適正値におさめ入学生を安定的に確保することで、適正な収支バランスを作り出す。

(2)	授業料無償化制度を前提として設計された新奨学金制度において、奨学金増の要因となりうる奨学金Cの強化指定クラブの給付対象者数の適切な管理を行います。
-----	---

3. スクールバス事業にかかる効果測定と検証を行ったうえで運行目的を明確化し、この事業において適正な収支バランスを作り出す。

(3)	ドライバー不足などの外部要因を踏まえ、運行コース内におけるルートの再検討を行い、キロ数の削減による支出減などの検討を行います。
-----	---

4. 新施設の建築や整備の設置・修繕等を念頭にした中長期的な財政計画を立案する。

(4)	生徒数や教職員数の状況を整理し、教室配置の対応方針について検討します。
-----	-------------------------------------

5. 設定した寄付額を達成できるような募集体制を構築し、寄付を推進する。

(5)	再編成した附属高校化以降の同窓生等ネットワーク（同窓会、後援会、教育を語り支える会の合同団体）において、継続的な寄付を依頼できる基盤を構築します。
-----	---

Ⅱ. 施設・設備

1. キリスト教教育を象徴する講堂（多目的礼拝堂）を建設する。

2. スクール・ミッションを体現できる施設（教室、交流スペース、図書館、体育施設など）の設計を行う。

3. 上記は、財政運営目標を達成した際に現実化に向けて検討を始める。

(1)	財政運営目標を可及的早期に達成します。
-----	---------------------

以 上